

令和 6 年度第 2 回西区地域包括ケアシステム推進会議

1 日時 令和 7 年（2025 年）2 月 12 日（水）14 時～15 時 15 分

2 場所 西区役所 3 階 健康センターホール

3 出席委員（敬称略）17 名

田嶋 哲、津田 美希、鈴木 昭彦、加来 仁美、伊勢野 美代子、桝隅 守人、
川上 喜久、中村 邦博、中島 花江、秦 英房、前田 律子、徳丸 由美子、
和泉 翔大、徳永 航太、窪田 寛史、伊藤 潤、坂本 あや

* 欠席 関 光輝、森田 義幸、(代理)宮崎 義隆

4 議事

- (1) 第 1 回会議での「AI デマンドタクシー（チョイソコくまもと西南）」の質問について（報告）
- (2) 熊本市地域包括ケアシステム推進会議について（報告）
- (3) その他

議事録等（要旨）

○事務局

議事（1）第 1 回会議での「AI デマンドタクシー（チョイソコくまもと西南）」の質問について報告

○会長

ただいまの説明に関して御質問とか御不明な点はございませんか。
前回質問頂きましたがいかがですか。

○委員

これは新聞に載っていたタクシー業者の意見だと思いますが、AI デマンドタクシーは趣旨や目的が違うとはいえ、運賃が 200 円、100 円、300 円と非常に安いと、営業妨害のように思われています。タクシー業者にはテリトリーもあるので、今後、AI デマンドタクシーの減便や条件が厳しくなるのではと憂慮しています。また、乗降所については、各所への申請や駐車場の確保、地権者の確認などの要件が厳しいと思いますが、半年に一度くらい新規の申請ができると助かります。これは意見だけです、よろしくお願いします。

○会長

そのほかございませんか。よろしいですか。
では続きまして（2）の議事、令和 6 年度熊本市地域包括ケアシステム推進会議の報告について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

議事（２）熊本市地域包括ケアシステム推進会議について報告

○会長

事務局からのただいまの説明に関して、委員の方々から何か御質問、御意見等ございますか。

○委員

今、事務局から説明がありましたが、13 ページの地域課題の 4 番の中に、少子化高齢化による福祉、介護分野の人材不足が問題になっているが、相談内容が複雑化して業務負担が大きくなっているとあります。まず、福祉分野の人材不足によって今、介護職員がかなり不足しているのではないのでしょうか。統計で見ると今、日本は介護職員が約 25 万人不足しています。一つは、給与が安いこと。夜勤もある割には、普通のサラリーマンの給与と比べると、7、8 万円ぐらい安いようで、今の若い人たちはそういう給料の安いところに勤めるかというと、なかなかそういうわけにはいかない。これからもこういう課題が出てくる以上、行政としてどうしたらいいかよく考えていただきたいと思います。あと 1 点、中央区の課題の中の 6 ページ、地域課題の 5 番のところで、単身世帯や共働き世帯の増加のほか、定年延長など社会要因による自治会への加入率低下や活動の担い手不足、役員の高齢化等が地域団体の課題とあります。私たち民生委員をしています、75 歳で定年ですが、なかなか次の民生委員の担い手がいらない。今もうほとんどの民生委員の地区では定員割れ、不足しているところが多い。定員が充足しているところはいいですが、ないところは結構困っています。三和地区は 35 名が定数ですが、今 3 名が欠員。今年 12 月に役員改選がありますが、定年の方が 5、6 人ぐらいおられます。その後うまくいけばいいですが。あと自治会の役員さんたちも全員高齢化でいつやめようかという話ばかりしています。その辺りは自治会の役員さんたちがいなくなり、自治会がなくなったら行政も困ると思います。東京の武蔵小杉では、世帯数が増えているのに、自治会の役員がいなくなったために、自治会がなくなっています。しかし、地方では人数が少ない上に役員さんが 1 人で、3 つも 4 つも役を持っている人がいます。次の担い手がいないと、その自治会も成り立たない。地域包括ケア会議でシステムを進めていくためには、この自治会役員さんの担い手、人材育成よりも人員不足のほうがかなり課題だろうと思うので、行政として問題を有効にしていきたいと思います。

○会長

ありがとうございました。事務局のほうから回答はありますか。

○事務局

まずその地域課題、人材不足については市としてもかなり危機感を持って対応していかなければならないと思っています。

一つは、先ほども言いましたD X化を進めることで、人を少なくして済むという取り組みが一つ。

それから専門職に頼ると、費用も発生するし、資格がないとできない部分もあるので、今、市では地域のボランティアの方に対する補助を行っていくというところを考えています。いかんせんやっぱり人はどんどん減っていくので、ある意味、まだ不確定だが、外国籍の方とかの就労支援も、可能性としてはあるかもしれないというところで考えています。

二つ目の単身世帯や定年延長で、自治会の成り手が不足しているという状況について、民生委員さんについては成り手が不足しているということについては、私どもも痛感しています。老人クラブも年々クラブ数が減り、さらに言うと、会員さんが高齢化していくと、若い方が入ってこないという流れがあります。

大きな要因としては、就労の高齢化、それと地域との関わり合いの希薄化、それぞれの生活スタイルが変化しており、地域での様々な役職に対する意識が低くなって、担い手が不足しているという状況です。現段階でこれに関しての特効薬は思いつかない部分もありますが、民生委員さんについては、来年度改選があり、その中で協力員をつけることもできます。そういった形で個々の負担を少しずつ減らすような取り組みを検証しつつ進めていければと思います。

○会長

そのほか、市の推進会議の報告についての御質問等ありませんか。

私、出席してきましたが、各課が集まっての議事で、それぞれの共通の問題点もあるし、区ごとの問題点もあるし、そういったところの報告発表で結構時間を費やしてなかなか解決策の議論まで行かないような会議でしたので、会議の方向性について次回から変更したほうがいいという意見も出ていました。会議の進め方はまた次回から変わっていくという話があったのでご報告します。では(3)のその他になりますが、そのほかの皆様からのご意見を伺います。

○委員

移動円滑推進課にお尋ねしたい点が2点ほどあります。1点がこのA I デマンドタクシーに関しての運営自体、要は収支の部分に関してはうまくいっているのかどうか、もう1点、これを拡大する方向性は熊本市の中で今考えているのかどうかをお尋ねできればと思います。

○移動円滑推進課

AI デマンドタクシーの収支についてですが、現在、熊本市がタクシー協会に業務委託し

て実施しています。運賃収入は1日300円で、高齢者の方はおでかけICカード等の提示で1日100円で運行しており、運行経費に対する収入の割合は低いですが、この計画で運行を行っています。

今後の拡大については、公共交通空白地域（バスや電車の停留所がない地域）への支援として運行していますので、将来のバス路線網等の状況によることとなりますが、運行事業者でも人材不足が起きており、将来に渡り運行を継続していくには、どの地域にどの程度の手当てをするべきか、コミュニティ交通（AI デマンドタクシーや従来の乗り合いタクシー）のサービス水準を検討し、議会等でご議論いただきながら来年度には基準を策定する予定です。

○委員

最初の質問ですが、こういった事業が途中でなくなると困難な状況になるので、持続可能かどうかをお尋ねしたかったのが1点です。もう1点、拡大するかどうかについてですが、ささえりあ花陵の圏域が古町と春日と白坪で比較的交通の便は良い方ですが、買い物や病院に行くのが大変な高齢者や障害者が多くいます。西南地区で病院や商業地域、銀行を經由しているのは理想的だと思いますが、現実問題として広がることのできるのかをお尋ねしたいです。また、熊本市の取組状況の中で地域の移動支援についても、人ができなくなったときに空白地帯になるリスクがあるので、地域の担い手を発掘するのが難しい部分もあると思います

○会長

そのほかございますか。

○委員

災害時の対応についてですが、福祉避難所の運営に当たって、職員が出てこれない場合に、駅前の専門学校の学生たちが手助けしてくれるとありがたいです。民生委員の不足についても、大きなマンションがたくさんできており、マンション内で完結してほしいです。日頃から災害時の対応をお願いできると助かります。地域の企業やボランティアと顔見知りになって、災害時に支えてもらえると助かりますので、行政からの働きかけをお願いします。

○事務局

福祉避難所にはいくつかの種類があり、特に児童や精神的な支援が必要な利用者が避難することが大前提です。その中で、対応するスタッフが日頃と異なるとパニックになる事例もあります。ボランティアの枠組みについてはまだ不明な点がありますが、今のご意見は関係課にも情報提供していきたいと思います。

次にマンションについてですが、マンション内での管理についてのご意見がありました。

基本的にはマンションの管理組合が施設管理を行うと認識しています。しかし、大規模災害時には行政として「マンションだから避難所には来ないでください」とは言えません。災害物資も提供しないわけにはいかないので、マンションの組合内でできることはやっていただき、できないことは行政が支援するという形になります。この点についても、マンションの組合に対して防災の観点から情報共有し、提案があったことを報告させていただきます。

○会長

マンションとか、各地域、地域でその人口動態も違うし、小さい個別の事案はたくさんあるかと思います。その辺も御意見として上げていただければ今後の参考になると思います。各専門分野からのご意見はありませんか。

○委員

災害時の対応も考えていかないといけない問題だと改めてお話をお聞きして思いました。マンション単位でも高齢化が進んでおり、隣の人を知らないというのもあるので、退職間近な人とか退職後の人に働きかける、地域の企業に働きかけるような切り口はないかと思いました。あとは先ほどの専門学校もありますが、近くに中学校とか高校とかありまして、実は私ども広域支援センターという地域リハビリテーションの立場でも活動していますが、近くにある高校に授業のお手伝いで職員を派遣していることもあり、その生徒さんと授業を通して関わっていくと、地域の通いの場で行っている体力測定であるとか、そういったものに非常に興味があって、自分たちの体力もどれぐらいあるか、ちょっと測ってみたいという気持ちになったとか、地域でいろんな活動をするときにイベントの声掛けをするような関係性になってくると、そこにも行ってみたいという声があったり、先生も一緒に来てくださったり、そういうつながりが広がっているかなと思います。

地域の問題は地域で解決するのが理想ですが、高齢者の問題を地域の高齢者だけで解決するのは限界があります。若い世代のニーズを満たしながら、横断的にできることを考える必要があります。

また、このような会議は多くの組織で行われており、大事な話がたくさんありますが、具体的な行動に移る前に年度が終わってしまうこともあります。西区ならではの行動につながるものができればと思います。

○会長

他にご意見はありますか。これまでの会議でも問題提起は多くありますが、中心に取り組む方向性を持つことが重要だと思います。市全体の会議に持っていても、各区からの問題提起が多く、中心的な話が進まないことがもどかしいです。この点については今後の検討課題としたいと思います。

○委員

先ほど会長からお話があった件について、市の推進会議に別の団体で参加していますが、各区からの報告を受けて返すだけでは実効性も具体性也没有せん。代表の先生からも会議のあり方を見直すように言われ、高齢福祉課と検討し、次年度に提示することになりました。

区としても、もう少し焦点を絞って取り組むべきだと思います。区全体の課題に焦点を当て、年度初めに具体的な対策を考えるために協力を求めることができればと思います。ただ、皆さんが多くの役割を兼務しているため、頻繁に集まるのは難しいかもしれません。市の推進会議でも意見交換だけで終わるのはもったいないと感じました。皆さんのご意見をお聞かせください。

○会長

これまでの会議で複数回上がっている意見を選び出し、焦点を絞って議論するのが良いと思います。次年度の第 1 回会議前に事務局から提示してもらい、各団体からの意見を事前に聞き取って議論する形が良いのではないのでしょうか。事務局の進め方についてご意見をお聞かせください。

○事務局

第 3 層の会議体は、地域ごとに課題を発掘するところで、本当に地域で何が困っているのか、何が必要なのか、そこをもう一度、ブラッシュアップして、各地域で共通の課題がもしあればそれを焦点するし、重要、緊急度に応じて対応するというやり方もあると思うので、まずは第 3 層でそういった内容を吟味させていただいた上で、こちらの第 2 層のこの推進会議を開催する前段に、早めに資料のほうを送らせていただいて、できればこの会議の場で意見を言ってもらえるような形、そしてその意見を反映して手直しができるような仕組み、そういったところで来年度以降は考えていこうかと思っております。

○会長

せっかく集まるのでなにか結果が欲しいという、そういったところもあるとは思いますが。来年度以降、よろしくお願いします。最後にご意見はありますか。

○委員

西区の取組状況の 23 ページ、8、9、10 番目の他職種連携について質問があります。以前、西区でも多職種連携の会議があったように思いますが、最近は行われているのでしょうか。

○事務局

以前は医療政策課（現医療対策課）が音頭を取って多職種連携を行っていましたが、現在

は福祉課としては行っていません。必要性は感じていますが、時間やメンバーの都合もあり、機会を見て考えていきたいと思っています。

○委員

熊本市在宅医療介護等連携協議会が設置されていますが、会議が多く、新しく作るのは大変です。皆さんは多くの役割を兼務しているため、既存の会議で多職種連携を進めるのが良いと思います。既存の会議を活用し、合わせてできるものがあれば、この会議のあり方にも通じると思います。私たち地域リハビリテーション広域支援センターも参加し、自立支援や介護予防の提案をしたいと思っています。

○委員

それに関連して、私は西支部で 8020 推進員の活動をしています。西支部の高齢化率は 5 区の中で最も高く、推進員もシニア層が多いです。定例会は 2 か月に 1 回行い、健康づくりも取り入れています。前々回は骨密度を測り、今回は YMCA から講師を招いて転倒予防の体操指導を行いました。推進員は地域でサロン活動にも関わっており、活動に活かしています。

リハビリのお話も頂きましたが、地域でサロン活動をしている身としては、本当に助かるとうか、ありがたいお話です。

今回初めて、11 月 8 日の「いい歯の日」に、企業とコンビニとコラボして、推進員がコンビニの前で一斉に、西区管内の 5 か所で噛む力の啓発を行いました。その日は 5 か所で 2 時間ごとの交代で行いましたが、皆さん本当に積極的に参加してくださり、そのパワーに感動しました。

先日は池上小学校で味生祭があり、これも積極的に取り組むやりがいのある活動でした。地域でのボランティア活動は、一つのおうちから出るきっかけにもなりますし、行政の後押しがあってこそできた部分も大きいです。これからも来年度もよろしくお願いしたいと思います。

○委員

西区には通いの場やサロン、元氣くらぶなどがあり、私たちもささえりあの方々と一緒に参加し、体力測定を行い、その結果をフィードバックしています。また、「この部分の運動はどうでしょうか」といった提案も行っています。西区で体力測定のデータを収集したところ、約 6 割のデータが集まりました。その中で、要支援の方が比較的多いという結果が出ており、筋力をつけることが必要だと再確認しました。

運動も大事ですが、同時に口腔の問題や栄養の問題もあります。西区内でこれらの問題についてどのように話し合い、活動していくかを考える必要があります。ぜひ今後の会議でこれらの問題を取り上げていただけると良いと思います。

○委員

昨年末に西区の老人会から料理講習会の依頼があり、2月20日に公民館で20名が参加し、私たち食生活改善推進員5名が調理実習の指導を行いました。昨日、熊本市の子供の食育研修会がありましたが、食生活改善推進員を知らない方が意外と多かったです。私たちは高齢者向けの「シニアカフェ」や「生涯骨太クッキング」などを13校区で交代で行っています。

地域の役員の方には、食生活改善推進員の存在を知らせていただきたいです。私たちもボランティアですが、何か困ったことがあれば西区の保健こども課に相談していただければと思います。また、最近「減塩君」という取り組みがあり、集まった皆さんにおみそ汁を持ってきてもらい、塩分濃度を計測してチェックしました。小さなことしかできませんが、少しでも高齢者の食育や健康に協力したいと思っています。

○会長

どこに相談すればいいかというところ、専門外のところになるとなかなか皆さん分からないということもあるかもしれないので、こういった御意見も貴重かなと思います。

○事務局

本日のご意見を、今後の課題として受け止め、会議がより良い方向に進むよう努めてまいります。地域包括ケアシステム推進会議は令和7年度も開催を予定しております。皆様からの貴重なご意見を十分に生かし、区政に反映できるよう努力してまいります。本日は本当にありがとうございました。

閉会